

2008年度都市史研究会シンポジウム

遊廓 社会

本年度の都市史研究会シンポジウムでは、近年、「遊廓社会」論の視点から進められている近世・近代における遊廓・遊女研究の成果をふまえ、都市社会史の立場から議論します。
19世紀の近世・近代移行期を中心に、公認・非公認の遊廓（売春営業地）とその周辺に形成された社会のありようを、社会空間構造の特質、遊女・遊女屋の身分的存在形態、遊廓を包含する諸都市社会の比較類型、といった諸局面に注目して検討し、遊廓社会の構造と変容を具体的に描くことをめざします。

*11月1日 第1日目 13時—17時

問題提起 近世・近代における遊廓社会研究の課題 — 佐賀朝（桃山学院大学）

報告 近世・近代移行期の甲府における遊廓 — 宿場から遊廓へ — 神田由築（お茶の水女子大学）

報告 北陸・港町遊廓の形成 — 加賀藩相生町新地を事例に（仮） — 人見佐知子（神戸大学）

報告 八戸湊の飯盛女 — 相馬英生（三戸市立図書館）

*11月2日 第2日目 10時—16時40分

報告 幕末維新期における横須賀大瀧遊廓 — 吉田ゆり子（東京外国語大学）

報告 温泉場の「三業」空間 — 昭和初期熱海における料理屋・待合・置屋 — 松田法子（東京大学）

報告 飯田遊廓における娼妓の生活について — 斎藤俊江（飯田市歴史研究所）

コメント 失われた飯田遊廓の建築紹介 — 伊藤毅（東京大学）

全体討論 司会 佐賀朝

会場 東京大学工学部1号館15号教室